

# コスモ石油 エコカード基金 「ずっと地球で暮らそう。」

## 2009

2008年度コスモ石油エコカード基金活動報告書 第8期：2008年4月1日～2009年3月31日

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」会員の皆さま  
コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」会員の皆さま

コスモ石油株式会社  
エコカード基金事務局

### 【お詫び】コスモ石油エコカード基金における拠出額の誤りについて

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
2009年4月30日にプレスリリースさせて頂きましたとおり、コスモ石油からエコカード基金に対し拠出する金額について誤りがあったことが判明致しました。エコカード会員の皆さまに深くお詫び申し上げますとともに、詳細につきまして、下記のとおりご報告致します。

1. 誤りの内容
- (1) 当社は従来のコスモ・ザ・カード・ハウス、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」に加え、2006年6月よりコスモ・ザ・カード・オーパス、コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」の売上金額の一部を基金に対して拠出しておりますが、一部の期間においてその拠出金額に誤りがありました。
    - ① 誤りがあった期間：2006年9月～2009年3月
    - ② 拠出不足金額：合計 10,119,666円
    - ③ 原因：オーパスカードには売上の締めが月2回ありますが、システム設計上、そのうち1回分しか拠出金がカウントされていなかったため。
  - (2) 基金の2006年度会計報告で、エコカード会員の皆さまからの寄付金の一部(2006年11月分)を当社からの拠出金として誤って報告していました。
    - ① 誤りがあった金額：2,743,020円
    - ② 原因：データを入力する際に、科目を誤ったため。

2. その後の対応  
当社拠出額の不足分(金額10,119,666円)につきましては、当社より基金に対して追加拠出致しました(2009年6月30日付)。2006年度の収入に関わる会計科目の誤り(金額2,743,020円)につきましては、下記のとおり修正致します。

	(誤り)	⇒	(正)
カード会員拠出金	39,661,468円		42,404,488円
コスモ石油拠出金	38,457,970円		35,714,950円

3. 再発防止策  
システムの改修は既に実施しておりますが、今後のシステム開発運用の管理体制を見直します。  
併せて、エコカード基金の収支報告書に掲載される金額については、エコカード基金事務局だけでなく、販売部門でも確認するダブルチェック体制にすることで、管理体制を強化し、今後の業務改善・再発防止に努めてまいります。



ジグソーパズルを使って、サンゴ礁について学ぶ子どもたち

## 【学校の環境教育支援】 次世代を担う子供たちが、 学校の授業の中で 環境問題に目を向ける機会を提供しています。

学校(先生)が行いたい環境学習を、環境教育を専門とする  
NPOがサポートしながら、一緒に授業を進めています。

次世代を担う子供たちへの環境教育が必要であると言われて中、教育最前線である「学校」では、先生方が環境教育の必要性を感じながらも、実際には何を題材にして、どのような方法で実施すれば良いのかが分からないという現実があります。  
本プロジェクトは小中学校の環境教育をお手伝いし、支援終了後も学校が独自に環境教育を行えるような体制を構築することを最終目的としています。  
自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOの指導のもと、環境教育プログラムを実施することで、児童や生徒、教員の方々に自然や環境問題に対する意識の向上が見られ、さらに、児童や生徒から家族へ、教員から他の教員へ、学校から他

の学校へと、環境問題に対する意識が広がっています。  
また、学校教育の場などで活用して頂くための環境学習サイト「EE kids」を構築し、環境教育のプラットフォームづくりも行なっています。  
これらのプログラムにより、子供たちが環境問題に目を向けるきっかけとなり、身近にとらえられるようになること、また学校教育の中に環境教育が根付くことをめざして、支援していきます。  
なお昨年度までの実績としては、2003年度から日本国内の学校に対して支援を開始し、2008年度までに延べ42校、約2,000人の児童や生徒、約100名の教員に対してプログラムを実施してきました。



ビオトープ見学の様子

### 収支報告



### 基金の収支に関するレビュー結果

2009年7月2日  
公認会計士 加藤 俊也

私は、コスモ石油エコカード基金(以下、基金という)の委嘱に基づき、基金の2008年度(2008年4月1日から2009年3月31日まで)の収支計算書についてレビューを行った。この収支計算書の作成責任は、基金の代表者にあり、私の責任は、独立の立場から実施したレビューに基づき収支計算書に対する意見を表明することにある。

レビューの結果、上記の収支計算書が、我が国において一般に公正妥当と考えられる収支計算の基準に準拠して、基金の2008年度(2008年4月1日から2009年3月31日まで)の収支の状況を適正に表示していないと認められる事項は、すべての重要な点において発見されなかった。基金と私との間には、公認会計士法の規定に準じて記載すべき利害関係はない。



### コスモ石油のカードに関するお問い合わせ先

コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」	0120-987-622	携帯電話専用 03-4330-1660	月～土曜・祝日/9:15～17:30、日曜日/10:00～17:30
コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」	北日本 022-771-1500 中部 059-353-2100	東京 043-296-6200 大阪 06-4863-0100	年中無休 9:00～21:00

制作  
コスモ石油株式会社

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号東芝ビル  
TEL 03-3798-3134  
http://www.cosmo-oil.co.jp/

# 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

コスモ石油エコカード基金は、2002年4月に「地球のために何かをしたい」というお客様の思いと、コスモ石油の思いがひとつになって生まれました。

当基金は2002年4月に発行した『コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」』と、2006年6月に発行した『コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」』の会員(以下「エコカード会員」)の皆さまからの年間500円の寄付金と、コスモ石油グループの寄付金をもとに、地球環境貢献活動「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開し8年目を迎えました。

message

このたび、コスモ石油エコカード基金理事長に就任致しました松村秀登と申します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、皆さまもご存知のとおり、気候変動の影響が世界各地で深刻化する中、地球温暖化の防止は、今を生きる私たちの大きな責務といえるのではないのでしょうか。当基金では美しい地球を残していきたいという願いから「ずっと地球で暮らそう。」という合言葉の下、NPO/NGOのプロジェクトパートナーや大学の研究機関と活動を続けて参りました。

私たちは、石油と関りの深い「地球温暖化の問題」をテーマに、「持続可能な開発支援」ならびに「次世代の育成」をサブテーマに掲げ、植林活動や地域住民の自立、環境教育などの支援を国内外で展開しています。

地球規模での温暖化対策に関しては、今年の12月のCOP15でポスト京都の枠組みが決まる予定ですが、その一方で、地球温暖化の影響はますます深刻化しております。特に発展途上国の人々は、実際に直接的な被害を

受けており、今この時も貧困に苦しみ、環境悪化で食糧や飲み水さえも手に入らない厳しい状況にさらされております。エコカード基金では2008年度に公募を実施し、新たに開始した3つのプロジェクトも加え、海外ではパプアニューギニア、ソロモンなどの南太平洋諸国及びアジアの国々への支援を積極的に行っております。一方、国内においては環境保全プロジェクトや次世代への環境教育支援等の活動を継続しております。

最後に、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトをご支援頂いているエコカード会員の皆さまに、心からお礼を申し上げます。私たちは、これからもエコカード会員の皆さまと地球環境保全への想いを共有し、今できることを実践して参ります。今後とも、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コスモ石油エコカード基金  
理事長 松村 秀登



## project 2009



## 持続可能な社会の実現

### 【プロジェクトコンセプト】

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトは、エコカード会員の皆さまやNPOやNGO、海外の現地政府など、さまざまなパートナーのご協力のもと、化石燃料である「石油」と関りの深い環境問題である「地球温暖化」への取り組みをテーマに、「持続可能な社会」づくりをめざす活動を進めています。「ずっと地球で暮らそう。」の合言葉の実現に向け、「持続可能な開発支援」と「次世代の育成」をサブテーマに、国内外で活動を継続しております。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、「地球のために何かしたい」という思いを実現するための、どなたでも参加できるカードです。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」はお客様から毎年お預かりする500円とコスモ石油からの寄付金を、環境保全活動を行うNPOや公益法人などに寄付することで、その活動をサポートしていきます。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」  
コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」  
会員の皆さまからの寄付  
入会后、及び次年度以降の入会月に  
500円の寄付をお預かりします

プラス

コスモ石油  
グループの寄付

地球環境保全をサポートする  
「ずっと地球で暮らそう。」  
プロジェクトを運営

グループ会社の  
コスモ石油エコカード基金への参加

コスモ石油のグループ会社であるコスモトレードアンドサービスのバッテリー「Eco Dyna」ならびにコスモ石油ルブリカンツの潤滑油「コスモECOシリーズ商品」の売り上げの一部をエコカード基金に寄付して頂いております。

Eco Dyna ▶ <http://www.cosmo-trade.com/goods/ct0027/rf0027.html>  
コスモECOシリーズ商品 ▶ <http://www.cosmo-lube.co.jp/car/eco.html>

### 2008年度の活動トピックス

中国の秦嶺山脈における活動実績

秦嶺山脈では商業伐採により、キンシコウやジャイアントパンダの生息地が荒らされ、絶滅が危惧されております。私たちは2005年度からコスモ石油エコカード基金による支援を受けており、商業伐採目的で作られ、現在では使用されていない道路に木を植えることにより野生動物が行き来できるよう、生息地の回復に努めております。2008年度は西北大学生命科学学院(以下、西北大学)の学生と付属の中等学校の学生がボランティアとして植林に参加しました。また

政府と共に地元住民を雇い、植林だけではなく、苗木が土地に根付くように管理、保護活動をしております。これらの活動は地元の新聞やテレビでも取り上げられました。さらに西北大学や中等学校では、「コスモ石油エコカード基金環境プロジェクトとキンシコウ保護」と題し、ポスターや写真を展示しました。また西北大学では、キンシコウの行動生態学、社会生態学の科学的な研究を継続的に行っており、7件の研究記事が国際ジャーナルに掲載されました。

西北大学生命科学学院  
李 保国教授

### 〈会員の皆さまへ〉 ソロモン諸島 マライタ州農業委員会より 感謝状が届きました

このたび、定置型有機農業の技術指導支援に対して、ソロモン諸島マライタ州農業委員会から、エコカード会員の皆さまへの感謝状を頂きましたのでご報告いたします。



### コスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆さまへ

ソロモン諸島の中で最も人口が多いマライタ州は、耕作地が狭く、さらに商業伐採や焼畑農業、気候変動による森林減少により、食糧不足の危機に瀕しております。

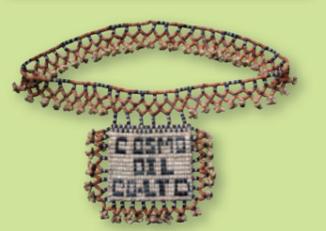
最近では、地震、津波、洪水など今まで経験したことのない規模の自然災害に加え、昨今の世界的な金融危機の影響も加わり、住民の生活は厳しい状態にあります。

そのような状況下、貧困の拡大を防ぐためにも、次世代を担う青少年へ農業を普及させるための研修プログラムを実施しております。その主な運営資金はコスモ石油エコカード基金からの寄付金です。私たちはコスモ石油エコカード基金の長年に渡る支援に大変感謝しております。

今後は、現状の研修プログラムの質を高めながらプロジェクトを継続し、焼畑農業から定置での循環型有機農業へ移行させるとともに、さらに他の地域にもこの活動を広げていきたいと考えております。

### ソロモン諸島マライタ州農業委員会より コスモ石油エコカード基金に対して オリジナルシェルマネーネックレスを 頂きました。

シェルマネー(貝貨)はマライタ州に残る伝統文化です。現在でも冠婚葬祭の礼金や特別な贈り物として使われます。今回は長年にわたるコスモ石油エコカード基金の温かいご支援に感謝し、現地の職人が特別にコスモ石油のロゴを入れて製作しました。



# 12 Projects

【エコ活動ファイル 2008】

マークの凡例



1 シルクロード緑化

中国

沙漠化が進むシルクロードで、地元農民の人たちや学生たちと植林活動を行っています。

中国シルクロード上の黄土高原では、急速に沙漠化が進んでいます。これは地元の人たちが木を燃料としていること、伐採した木材を販売し現金収入を得ていること、さらに耕地確保のために伐採を続けてきたことが主な原因と言われています。そこで、乾燥と寒暖の差に強く、沙漠化を防止する効果ならびに経済的な価値が高いサジー(サジー)の植林を行い、沙漠化を防止するとともに、地元の人たちの生活の安定をめざしています。

2008年度活動実績

中国甘肅省通渭県の山岳植林地35ヘクタールの土地に、105,000本の木を植林しました。また、中国の地元指導者と会合する場を設け、植林方法や管理方法について指導しました。

2009年度活動予定

昨年度に続き、中国甘肅省通渭県において120,000本のサジーの苗木を植林する予定です。さらに地元の人たちに植林後の管理を委託し、地元の人たちの自立と貧困の解消を図ります。また植林後の苗木が根付いて成長する割合が高くなるよう、管理状態をモニタリングします。



植林をする子どもたち



参加した地域の子どもたちと



成長したサジーの実

4 種まき塾

日本

「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、森林づくりと環境教育に取り組んでいます。

物ごとの始まりであり「循環」の象徴と言える「タネ」に注目し、自然づくりと環境教育に取り組んでいます。山からタネや実生(タネから発芽したばかりの幼い木)を採取し、これを苗畑で育て、地元で植林する人たちに提供します。さらに苗木の育成や植林活動を通じて、環境教育プログラムを実施しています。

2008年度活動実績

苗木の供給として、アカエゾマツやミズナラなど、その土地に合った苗木を「北海道山村草木会」や「富良野市民植林」など地元で植林する人たちへ合計7,168本供給しました。環境教育では、育苗体験に延べ579人が参加しました。

2009年度活動予定

北海道富良野市における自然林づくりをめざし、その土地に合った苗木づくりを実践していきます。2009年度はエコカード会員向けのエコツアーを実施する予定で、山からタネや実生を採取し、育苗、植林の環境体験学習を実施します。



実生を採取する参加者たち



実生を苗畑で育てる



育った苗木を植える作業



植林をする学生たち

2008年度活動実績

現在は使われていない道路194kmのうち14kmに5,000本の苗木を植林し、その様子が、2008年4月に地元のメディアで取り上げられました。また植林がキンシコウやジャイアントパンダなどの野生動物にどのような効果を与えたのかを、西北大学生命科学学院の学生がまとめ、研究記事7件が国際ジャーナルに掲載されました。

2009年度活動予定

昨年度に続き、道路14kmに11,000本の苗木を植林する予定です。またキンシコウやジャイアントパンダなどの野生動物の生態を観察し、研究を継続していきます。



植林後の様子

3 秦嶺山脈 森林・生態系回復

中国

植林を通じて、絶滅危惧種の生息環境改善に取り組んでいます。

秦嶺山脈は、絶滅危惧種であるジャイアントパンダやキンシコウなどの希少動物の宝庫として世界的にも有名です。しかし、20世紀後半の森林伐採により、森は荒廃し、種の絶滅が危ぶまれるようになってしまいました。このプロジェクトでは、豊かな森林と生態系の回復をめざし、商業伐採のために作られ、野生動物の往来を妨げていた道路への植林と、動植物の観測に取り組んでいます。

12 エコキャビンスクール

2008年10月開始

日本

全国の子どもを対象に、エコロジカルな暮らしを体験するスクールを展開しています。

エコキャビン(自然エネルギーで生活できる家)スクールでは、子どもに自然エネルギーを活かした暮らしを体験してもらい、地球温暖化防止に向けた行動を実践する意識を高め、持続可能な社会づくりをめざしています。



太陽光パネルを設置する子どもたち

2008年度活動実績

自然エネルギーについて学ぶために、太陽光発電機とエネルギーモニターを「エコキャビン」に設置しました。また、実際にエコキャビンを使い、「子どもエコキャビンスクール」を実施し、小中学生16名が参加しました。

2009年度活動予定

小中学生を対象とした自然エネルギー体験プログラム「エコキャビンスクール」を実施し、太陽光パネルを利用したLEDの照明器具を取り付け、自然エネルギーについて学ぶ予定です。



エネルギーモニターを接続の様子

10 野口健環境学校

日本

環境に対し自ら行動できる「環境メッセンジャー」の育成を支援しています。

「自分から環境に対して行動しメッセージを発信できる人「環境メッセンジャー」を育てていきたい」。そんな思いから野口健さん率いるNPOとともに「環境学校」を開催しています。環境学校では自然の美しさや楽しさを体験し、環境保全の在り方や、背景にある社会問題も学びます。



富士山でのごみ拾い

2008年度活動実績

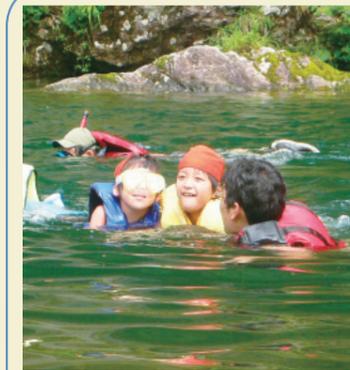
富士山で3回、佐渡で1回、合計4回の環境学校を開催しました。2008年度は、小学生から大学生まで延べ64人が参加しました。毎回テーマを変え、清掃活動や間伐体験、里山保全活動などを行いました。

2009年度活動予定

2009年度は「白神山地」と「富士山」で環境学校を開催します。白神山地でトレッキングをしながら自然のしくみや成り立ちを体験し、富士山では、環境に関する自然体験と体力育成のための登山を行う予定です。

9 学校の環境教育支援

日本



川にいる魚を観察

日本各地のNPOとともに、教育の現場、「学校」での環境教育を支援しています。

教育最前線である「学校」の環境教育をお手伝いすることが、このプロジェクトの目的です。自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校とのマッチングを行い、互いの長所を活かした環境教育プログラムに取り組んでいます。また、環境教育サイト「EE kids」を活用し、環境教育のプラットフォームづくりも行っています。

2008年度活動実績

学校による自主的な環境教育の展開をめざし、日本各地13校に環境教育プログラムを支援しました。

地区	学校	内容
北海道	札幌小	冬の運動会や遠足を通して、雪や氷についての体験学習を実施
岩手県	平山小	待機電力や地球温暖化、太陽光発電について体験学習
宮城県	鹿折中	牡蠣養殖見学や、養殖家による環境に関する講義を実施
	筆甫小	地元での森の学習や炭焼き体験学習
	鶯沢小	3年生：水の浸食による河川の形成、水力発電について 4年生：温室効果の模擬実験や自然エネルギー体験学習を実施 5年生：地域の自然環境観察や炭鉱技術、リサイクル工場見学 6年生：大土ヶ森登山と大土ヶ森を紹介する紙芝居の作成
埼玉県	大袋東小	校舎内の動植物観察。また教員の環境教育研修を実施
東京都	中島根小	ビオトープの見学、設計図制作およびビオトープ造成
	富久小	ヒートアイランドやグリーンカーテンについて体験学習
	東戸山小	地域周辺の動植物の観察やゲームの実施
三重県	東黒部小	海岸清掃やキャンプ場で森林保全学習
	第五小	宮川上流域の生物学習、生態系に対する知識を取得
鹿児島県	漆小	地元の野鳥観察を通して食物連鎖や生態系を学ぶ
沖縄県	富野小中	サンゴ礁を観察、白化現象調査。報告書作成

2009年度活動予定

2009年度は、支援対象校を日本全国から公募し、岩手県2校、宮城県1校、東京都1校、三重県1校、奈良県2校、大阪府1校、岡山県1校、香川県1校、鹿児島県1校、沖縄県2校の全13校に環境教育プログラム支援を行う予定です。



薪を使った夕食作り



野口健さんを隊長に富士山の環境学校を実施

**5** 内モンゴル緑化  
2008年10月開始

中国



苗木基地での植苗作業

**モンゴルの沙漠にサジーを植林し、環境教育と生活水準の向上に取り組んでいます。**

沙漠化が急速に進む中国のモンゴル自治区において、現地の八仙筒中学校に経済的価値の高いサジー植林基地を設置し、沙漠化防止と環境教育、地元的生活水準向上をめざします。

》》2008年度活動実績

「内モンゴルの沙漠化と防止活動」というパンフレットを作成し、内モンゴルにおける沙漠化の原因や影響ならびにその防止活動について説明しました。また、苗木基地の役割や植林方法を説明する教材を作成し、地元の中学生に対して環境教育を行いました。

》》2009年度活動予定

これまでの環境教育経験を活用し、より一層充実した教材、資料を用いた環境教育を行います。さらに学校の普段の授業でも環境教育が行えるように現地教員との研修会実施を計画しています。

**中国**  
China



GPSを使って測位する地域の人たち

**8** 北タイ山岳地帯 共有林地図作成  
2008年10月開始

タイ

**北タイ山間部の人たちが、自然に支えられた生活を再び取り戻すための「共有林地図」を作成しています。**

北タイ山間部では、地元住民は森林の中で持続可能な豊かな暮らしを営んできました。しかし、大規模な森林伐採による環境破壊を食い止めるために、国がすべての森林を「国有林」に指定し、地元住民が森に住めなくなりました。北タイ山間部の人たちが、再び森での自然に支えられた生活を取り戻すためには、現在の「国有林」が「共有林」として国に認められることが必要です。そこで、「共有林」の申請に必要な地図作りを地元住民とともに進めています。

》》2008年度活動実績

2008年度は、活動対象地域における情報収集や、村のリーダーとの話し合いを進め、プロジェクトの対象となる8つの村を選択しました。またスタッフ研修やファーン川流域地図作成に関する講習会を実施しました。

》》2009年度活動予定

昨年度に続き、政府に対して申請可能な地図を作成するとともに、今まで培ってきた経験を活かして地図作成の技術を普及させ、事例となる村を10村程度まで増やす予定です。



共有林の範囲を設定するための立体模型作り

**タイ**  
Thailand

**フィリピン**  
Philippines



もみすり機を作るパプアニューギニアの人たち

**7** 熱帯雨林保全

**熱帯雨林の保全をめざし、焼畑農業から定置型循環有機農業への移行を支援しています。**

パプアニューギニアとソロモン諸島は、熱帯雨林が茂る自然に恵まれた島国です。しかしながら、近年の人口増加や急速な近代化により、従来行われてきた焼畑農業は、森の再生スピードを超えて広がり、熱帯雨林の破壊原因の一つとなっています。当プロジェクトでは、定置型有機農業の技術指導と普及による熱帯雨林の保全と地元の人たちの生活安定をめざしています。

》》2008年度活動実績

研修農場プロジェクトとして、農場に併設されている図書室の参考書籍の充実化、研修プログラムの立案を実施しました。定置型有機農業プロジェクトでは、手動もみすり機の作り方や、もみのふるい落とし方を指導しました。また刑務所に収容された人たちの社会復帰に向け、農業見学や体験学習を実施しました。

》》2009年度活動予定

定置型有機農業の技術を普及させて、各村のリーダーを輩出していく予定です。また新たに野生動物の保護や観察用の野生動物園の整備、熱帯原生林の調査研究を始め、さらに「調査指導センター」を建設する予定です。

**パプアニューギニア**

**ソロモン諸島**

》》2008年度活動実績

循環型有機農業の人材育成施設「パーマカルチャーセンター（PCC）」では、4期生35名を全国から受け入れ、12月時点で28名が卒業しました。「ソロモンオーガニックセンター（SOC）」では、キャッサバチップスや蜂蜜入バンケーキなど加工食品を試験的に製造販売しました。

》》2009年度活動予定

昨年度に続き「PCC」では、循環型有機農業研修を実践し、稲作、野菜、家畜、森林などを指導します。また「SOC」を拠点として、生産青果物の流通や商品開発を行っていきます。



研修に参加したソロモン諸島の人たち



ソロモン諸島での循環型有機農業研修



パーマカルチャーセンターの卒業式の様子

**パプアニューギニア**  
Papua New Guinea



糸つむぎ機でつむいだ糸

**6** 循環型農業支援

フィリピン

**循環型農業によるエリ蚕織物づくりで、森林保全と女性や子どもの自立を支援しています。**

フィリピン南西部のパラワン島は緑豊かな島ですが、同国の中で最も開発の遅れた地域といわれています。この地域では、生活の糧を得るために森林伐採や焼畑農業に従事する人たちが増えてきています。そこで、パラワン島の首都において、タグバライ財団の協力を得て、地元の女性によるキャッサバ栽培と、エリ蚕飼育による環境保全活動を展開しています。

》》2008年度活動実績

2002年から継続的にエリ蚕飼育、糸紡ぎ、編み物、織物を指導しています。2008年度も3回現地を訪問し、編み物、織物が製品として輸出できるよう、仕上げ作業を重点的に指導し、その結果、返品される製品が減少しました。

》》2009年度活動予定

2009年度は、品質管理とマーケット開拓を中心に活動を展開します。また、生産性を向上させるために、比較的簡単に糸紡ぎが出来る機械で生産していきます。



スクーフなどの製品を生産している様子

**2** 南太平洋諸国支援

**地球温暖化の影響と言われている海面上昇で、危機的な状況にある南太平洋諸国へ支援しています。**

南太平洋のキリバス諸島やツバルは、気候変動の影響を真っ先に受けると言われている島国です。平均海抜が数mしかない両国は、海面が上昇すると住宅が浸水したり、井戸に海水が流入し、飲料水が不足したりするといった問題に直面しています。さらに作物が育たなくなり、自給自足の循環型社会から輸入品に頼るようになったため、そのゴミが島内に散乱し、新たにゴミ問題も発生しています。本プロジェクトでは、海面上昇による海岸浸食から島の人たちを守るためのマングローブ植林とゴミの分別処理に向けた啓蒙活動を支援しています。



キリバス共和国での環境教育風景



マングローブ林の様子

**キリバス共和国**

》》2008年度活動実績

昨年度は約6,500本のマングローブの苗木を植林しました。また、キリバスの大統領から環境教育をして欲しいという依頼を受け、現地のルルバオ小学校児童63人と教員、環境・国土・農業開発省職員と協力して植林をしました。

》》2009年度活動予定

2009年度は約50人の住民とともに6,000本のマングローブを植林する予定です。またキリバス関係諸機関の担当者を指導し、マングローブの植林、保全・再生にかかわる技術移転をめざします。

**ツバル**

》》2008年度活動実績

2008年3月に植林したマングローブが無事成長していることを確認し、新たに2,949本のマングローブを植林しました。また以前に植林したマングローブの手入れも行いました。さらにゴミを分別すれば資源になることを知ってもらうための教育方法について、専門家を招き、現地調査を実施しました。

》》2009年度活動予定

2009年度は、2,000本を目標にフナファアラ地区にマングローブを植林する予定です。また、ゴミを分別すると資源になることを認識するためのワークショップを開催し、ゴミ処理の啓蒙活動を行っています。具体的には廃プラスチック油化装置を導入し、一部のプラスチックが油になるという実験をする予定です。



2回目を迎えたツバルのマングローブ植林

**キリバス共和国**  
Republic of Kiribati

**ツバル**  
Tuvalu

**ソロモン諸島**  
Solomon Islands